

CS (コミュニティ・スクール)

平成 16 年 9 月から、新しい公立学校運営の仕組みとしコミュニティ・スクール (学校運営協議会制度) が導入されました。コミュニティ・スクールは、保護者や地域の皆さんの声を学校運営に直接反映させ、保護者・地域・学校・教育委員会が一体となってより良い学校を作り上げていくことを目指すものです。三鷹市では平成 18 年度から導入を始め、全国より注目を浴びています。「三鷹の森学園」は第三中学校、第五小学校、高山小学校からなり、平成 21 年度より開設、1 年が過ぎました。

～自然教室の思い出～

三鷹の森学園 学園長 山田三重子

中学時代の常念岳・燕岳への登山が思い出に残ります。山頂の学級写真の後列には、友人を背負った私の父の姿があります。足の不自由な友人の「一緒に行きたいな」のつぶやきと私の願いを受け止めた父が、友人を背負って 2800M 級の山を登ったのです。友人を背に慎重に進む後姿を見続けた三日間、常念尾根の風景や燕岳のご来光は余り目に入りません。当時は学校行事への保護者同行は珍しく、私のわがままを通したような負い目もあり、先生の負担も気がかりでした。教育ボランティアが一般的ではない時代の少女の心配事でした。

コミュニティ・スクール委員会 会長 石井章夫

日頃より、皆様には大変お世話になり、ありがとうございます。

今回のお題「自然教室の思い出」・・・もう 30 年近く経つわけですが、今と違うところは 1 校で行っていたこと (クラス数は 4 クラスなので規模は同程度)、先生方や児童の時間に余裕があったことかなと思います。なんにしても毎日会う友だち・先生方との非日常の体験は今でも忘れることがありません。それほど貴重な時間を持てたことに、大人 (先生・親) へ改めて感謝の気持ちがあふれます。その立場になった今、手を差しのべるところは出し、見守るところは見守り、こちらも大人として育って行きたいと思うところです。

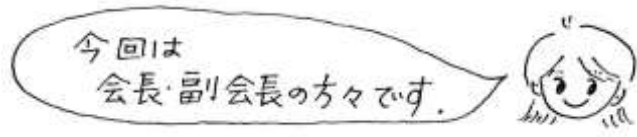
CS 委員紹介リレー

CS 委員ってどんな人？



三鷹の森学園 CS 会長
 石井 章夫さん

現在「三鷹の森学園」の顔として活躍中ですが、実はもう何年前から三鷹市内で PTCA (PTA+C: 地域) を実践されています。「顔の見える連携」が口ぐせの石井さん。今日もどこかで、地域と地域を太い絆でつなぎ、たくさんの方の仲間と共に楽しい事を企てていらっしゃることでしょう。写真は、たくさんある顔の一つ消防団第 3 分団の石井さんです。
 (三中にて)



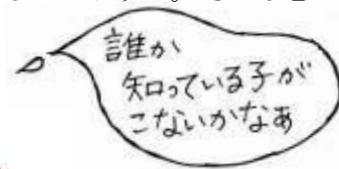
三鷹の森学園 CS 副会長
 地域子どもクラブ
 コーディネーター
 篠原 秀和さん

五小・三中の卒業生で井の頭で魚屋さんをしています。地域の胃袋を新鮮な魚で満たしながら、子どもたちのためなら、たとえ火の中 (ある時は消防団)、水の中 (ある時はライフセーバー)。まさに 24 時間熱いハートで活動してくれている地域密着人間です。五小の校庭が子ども広場として毎日開放されているのも篠原さんの存在あってこそ。



川上郷自然の村。降り立ったその瞬間、その雄大な自然に圧倒される。八ヶ岳、金峰山、天狗山などの山々。広い空に向かってまっすぐに伸びるカラマツやシラカバの木々。見わたすかぎりのレタス畑。いつもいつでも何か大きなものに包まれている安心感と、越えられない威圧感をあわせもち、東京の日常とは切り離されたこの場所で、子どもたちは何を感じて、何をつかんで帰るのだろうか。そんな思いで取材がスタートした。

開校式。さっそく高山小 VS 五小のあいさつ合戦が始まった。



食堂で2校そろっての夕食。お互いの一日の成果を発表しあう。手前が五小、奥が高山小

宿泊階は2校がそれぞれ1階と2階に分かれている。両校が出会える食堂前の水筒置き場で、五小の児童を待つ高山小の子どもたち



ぐっと縮まる2校の距離

1日目の合同イベント「レクリエーション大会」。インストラクターの方々と一緒に盛り上がる子どもたち。ゲームを通して次第に2校の子どもたちの距離が縮まっていくのが感じられる。どちらの学校の子とも素直で一生懸命で子どもらしい。その中にもリーダーシップをとる子、おどけた表情で場をなごませる子・・・色々な個性が表れていておもしろい。

こんなことしてたんだ



宇宙にたったぼくらだけ・・・

取材はできなかったが、子どもたちの4日間に思いをめぐらしてみた。親元を離れて過ごす4日間。疲れたときも、うまくいかなかったときも乗り越えるのは自分自身。支えてくれるのは仲間しかいない。まるで「世界にたった僕らだけ・・・」と錯覚してしまいそうな川上村での初めての夜。一步宿舎から出れば、手が届きそうな満点の星空。きっと彼らは無限の宇宙を実感することだろう。そして「宇宙にたった僕らだけ・・・」と思ったとき、つなぐ手をあらためてにぎりしめ、絆を深めるのだろう。

キーワードは“一体感”

これまで、五小、高山小のリーダーとしてそれぞれの学校を引っ張ってきた6年生。その力を次はお互いの学校の伝統を、個性をぶつけ合いながら学園としての一体感を生み出すエネルギーにしてほしい。時にはにらみあい、ぶつかりあうこともあるだろう。でもそれはお互いを知り、好きになるために必要な時間。この子たち個性をうまくいかすことができれば、中1ギャップ*1解消の糸口も見えてくるかもしれない。大切なのは子どもたちを取り巻くまわりの大人たちの一体感。そのためにできることを考えたい。例えば、地域のスポーツクラブではすでに交流が始まっているし、

夏祭りや神明神社の例大祭で出会うこともあるだろう。

三中に進学し、三鷹の森学園のリーダーとしてこれからの学園を引っ張っていく6年生たちを、小・中9年間のカリキュラムで子どもたちを支えてくれる先生方を、これからも応援していきたいと思いつつ、往復6時間、滞在時間3時間の取材を終えた。

<番外編>

最後の朝食の後。高山小の堀越先生ギター、五小の比屋根先生のピアノ伴奏で「友だち」「明日のつばさ」を歌う。先生、子どもたちが一体感に包まれるとき。



小中一貫教育って??

今回は「乗り入れ授業」について三中の小中一貫コーディネーター服田先生におうかがいしました。

Q. 現在おこなわれている「乗り入れ授業」とはどのような授業ですか？

中学校の英語の先生が小6の英語活動をサポート、小学校の先生が中1の数学少人数をサポートしています。

Q. 小学校の先生が中学生を対象に、中学校の先生が小学生を対象に授業をするのではないのですか？

いろいろな「乗り入れ授業」の形を模索中ですが、始まったばかりの今は、事前準備などに一番負担がなく効率のよいこの形になっています。

Q. この「乗り入れ授業」によってどのような効果が期待できるのですか？

一番は先生方の相互理解を深めることです。小学校、中学校にはそれぞれ独自の文化があります。以前はそこは入れない領域だったのですが、交流することによって垣根が取り払われてきました。小学校の先生は卒業後の子どもたちの様子も見るができるようにもなったわけです。

Q. 服田先生が小学校の授業に入られている授業も拝見しました。

子どもたちは、「中学の先生」に興味津々で質問していましたね。

これからの「乗り入れ授業」で何ができるのか、どのように展開していくのか小学校の授業の中で模索しているところです。

子どもたちの感想や保護者の方からのご意見も聞くと参考になります。



Q. これからの「乗り入れ授業」はどのように進められていくのでしょうか？

子どもたちの確かな学力を保障するために、保護者の方々が小中一貫のメリットを感じられる授業を作っていきたいです。

Q. 服田先生が小学生に理科の授業をするとしたら、どのような授業(実験)をしてみたいですか？

小学校にはそれぞれの指導計画や学年の文化がありますので、一概には言えないですし、実験をするようになるにはまだまだ準備が必要ですね。今は交流を深めてお互いをよく知る時だと思っています。



サポートをする先生は座席表入りのノートに個々の課題や気付いた点を書き込んでいく。



速さについて学習中の6年生に、服田先生からの挑戦問題も出題されました。

※1 中1ギャップ…小学生が中学校へ進学した際に学習や学校の生活になじめなくなってしまう、いじめや不登校につながる現象。

※2 教育ボランティア…地域・保護者の皆様の技術や経験、知恵やエネルギーをお借りしながら、学園ならではの教育を作りあげてをねらいとしたボランティアのこと。

CSレポート 《サポート部》

教育ボランティア募集中！

先日配布した「教育ボランティア*2登録用紙」は提出していただけましたか？サポート部では学校を支える地域力として教育ボランティアを募集中です。子どもたちは様々な大人と関わり合うことで、大きく成長していきます。是非お力を貸してください。

現在50名程の応募がありました。まだまだ募集中！応募をお待ちしています。



教育ボランティア説明会の様子 (五小)

こちらは学園の教育ボランティアの前田さんです。井の頭在住の前田さんは環境教育インストラクターの資格を生かし、五小の3年生の「身近な自然の観察」の授業にゲストティーチャーとして登場！今年で6回目になるプールでの「ヤゴ救出大作戦」ではその生態や飼い方について教えてくださいました。

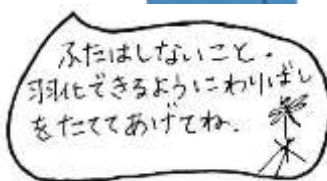
職業人の方々をコーディネート

教育ボランティア紹介



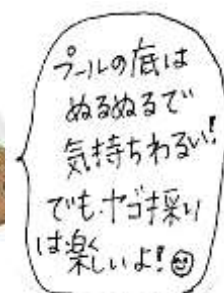
三中で行われた職業人の話を聞く会の様子。(写真は美容室プカシエル店長の田畑さん)

三鷹の様々な職業の方をゲストティーチャーとして招き、職業や生き方について学ぶ授業を、サポート部がコーディネートしました。



《地域部》

「学園を支えてくださっている地域の方に楽しんでもらいたい」という子どもたちの地域貢献活動として始まった「花いっぱい運動」も二年目をむかえました。子どもたちが一生懸命植えた様子がアンケートに表れています。どうぞ足を止めて花壇をご覧ください。



- * 花の色の組合せや位置、場所を考えながら植えたよ。大変だったけど、楽しかったよ。
- * 植えるのは大変だったけど、楽しかった。
- * 学校の周りが花いっぱいになって気持ちいいな。
- * 通る人が「きれいだな」と思ってくれるとうれしいです。
- * はじめて参加したよ。たくさんの方が手伝ってくれました。また参加したいです。
- * 植えるところの土が固くて掘るのが大変だったけど、楽しかったよ。
- * 花を植えることはあまりないのでやってよかったです。
- * 花を植えた場所を通るときにみんな喜ぶと思います。
- * 楽しかったし、花の水やりの時間のことなどいろいろわかったよ。
- * 水やりをしたいので家からペットボトルを持ってこようと思います。



☆三鷹の森学園の
暑い！熱い！夏休み
☆あいさつ運動

～三中生の新たな取り組み～

ある日の広報部ミーティング風景

～番外編「川上村珍道中」～

信濃川上駅発佐久平行終電 20:32。これに乗らないと東京行最終新幹線に間に合わない。反対方向の小淵沢行終電もすでに発車し、辺りは真っ暗・・・駅には私たち三人だけ・・・ホーム脇の林では物悲しい鹿の鳴き声が・・・

そこへ突然無人駅の放送が入る。「え～、清里と野辺山の間で鹿をはねました。復旧のメドはたっていません。」えっ？私たち家に帰れないの？！あわてて小淵沢駅に電話するが、「何時に運行再開するかわかりませんよ」の答えばかり…。どうしよう(>_<)助けて！石井 CS会長！！

三鷹市公立学校 PTA 連合会が例年行っている学校めぐりが今年度は三鷹の森学園でありました。各校の授業、施設の見学、校長先生による学校の説明が行われ、理事の皆さんは熱心に見て、聞いていらっしゃいました。

「これいい！」「あれいい！」と日ごろの自校の PTA 活動に役立てたいとの声が上がっていました。